令和２年度水戸市研究指定校実施報告書

第四中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

学校名　　吉田小学校　　酒門小学校
吉沢小学校　　第四中学校

目指す児童生徒像　　心身ともに自らきたえ，知性豊かな児童生徒

研究主題　　児童生徒，教職員の交流を図りながら，
「よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指して」

１　主題設定の理由

第四中学校区の三つの小学校はそれぞれ全校児童数約 600 名の規模であり，第四中学校においては生徒数 900 名を超える大規模校である。小中学校４校では，以前より「児童生徒の情報交換会」や「学習指導や生活指導についての情報交換会」が行われ，児童が中学校へスムーズに移行し，安心して生活できるよう環境づくりに努めてきた。また，中学校の吹奏楽部や合唱部が各地区の地域行事の中で演奏に参加したり，多くの生徒がボランティアとして参加したりするなど，交流活動も行われている。地域の方は学区の児童生徒の活躍を楽しみにしており，学校行事や地域行事への関わりも積極的で協力的である。児童生徒や地域・保護者を含め，学校内外で多くの人との関わりがあり，活気あふれる活動が様々なところで見られるのがこの学区のよさである。

そうした中，これからの時代を担う児童生徒には，他者と協働して課題を解決していくことや確かな学力を習得し活用する力が求められることから，９年間を見通した連携をより一層推進していくことが必要である。

そこで，各学校の実態を考慮しながら，小中学校が「そろえる」「つなげる」活動を吟味し実践していくことで児童生徒の確かな成長につなげていくことが大切である。また，大規模校で人との関わりが多いという特性から，多様な児童生徒を一つにまとめ，よりよい集団をつくることを実践の基盤と捉え，規律の順守や児童生徒の自主的・自立的な活動等への支援を共通実践することがより一層求められる。

以上のことから，児童生徒自らがよりよい学級から学年，さらに，学校をつくり上げようとする意欲と行動力を高める。さらに，９年間を見通して「継続してできること」を基本に，児童生徒の育成を目指していきたいと考え，本主題を設定した。

２　研究のねらい

（１）特別活動において，行事や話合い活動の進め方等を小中共通で設定・実践していくことにより，学級活動や児童会・生徒会活動の活性化を図る。

（２）９年間の学びの連続性を重視して「学習の約束」や「共通の授業構成」の検討，授業力の向上に取り組むことにより，基礎的基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する力を育む。

３　具体的な取組内容

（１）今年度の取組

①　学力向上部会

ア　ねらい

学力向上部会では，学力の向上を目指し９年間の学びの連続性を重視して取り組んだ。今年度は，コロナ禍での休業中の４月に各校の副部長が集まり，取り組むことを確認

した。学校再開後は，各校が確認したことに取り組み，実践したことをまとめるために，再度８月に副部長が集まった。

三つの小学校が，学習の約束を共有化して学習指導に取り組むことは，児童が第四中学校に進学した後，円滑に学習に取り組めることにつながるだろうと考えた。

イ　取組

（ア）学習の約束の共有

今年度が始まるに当たり，４校の学力向上部の副部長が集まり，児童生徒の学力を向上させるための，９年間の学びの連続性に着目して話し合った。２年次に話し合ったことをもとにして，次の点について，４校が共通して実践することとした。

○ミニテストに関すること
- 点数をとりやすい内容で定期的に実施
- Ａ５程度，10 分間で終了できる（取り組むことができる）内容
- 月１回×２教科(漢字と計算)

【学力向上部員の話し合い】

○黒板やノートの使い方に関すること（算数・数学）
- 問　題-------- 青　枠
- 課　題-------- 青下線
- まとめ-------- 赤　枠
- 単　位-------- 赤　丸

○自主学習に関すること
- 内容は，各校オリジナルで
- 小学校：学年×10＋10(分)
- 中学校：生活ノートに基づいて

今年度については，臨時休業期間があったため，実践できる期間が短くなってしまった。しかし，大部分の取組が２年次からの継続であり，学校再開後，すぐに実践することができた。中学校区内での取組が日常化されることは，臨時休業等の不測の事態が生じても，学習指導に関する約束事の共有を容易にすることにつながった。

（イ）学習定着状況調査結果の分析

今年度は学習定着状況調査が中止となってしまったが，４校が中学校の学習面の課題を把握すること，把握した課題を克服するために，小学校３校が共通して指導することを確認することは，学力の向上につながると考えた。各校の副部長から，来年度以降も継続していきたいという意見が挙げられた取組であった。

○４校共通の課題　（抜粋）

国語 ---接続詞　　社会--- 地図の活用

算数 ---式と図をつなげる思考，複合図形の求積

理科 ---顕微鏡の使い方，実験の技能　　英語--- 書くこと

②　規範意識向上部会

ア　ねらい

よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指し，４校での発達段階を含めた共通理解と共通実践を図る。

イ　取組

（ア）実態把握と実践の方向性

○　アンケートによる実態の把握

○　小・中合同の「あいさつ運動」の実施

○　９年間を見通した学校生活の約束の検討

○　不登校児童・生徒の解消に向けた取組

○　小中連携による情報の共有
○　道徳的心情・道徳的実践力の育成

（イ）あいさつについての活動

今年度は，新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため，思うような活動ができなかった。その中，次の２点を行った。

○　あいさつ・礼儀に関する道徳の授業の実施

第四中学区全体で，どのクラスもあいさつ・礼儀に関する道徳の授業を行うことを実施した。また，そのワークシートを模造紙にまとめたものを４校分作成し，各学校に掲示し，それぞれの道徳の授業の様子や意識について共通理解を図るようにした。

【規範意識向上部会研修会の様子】

○　あいさつについてのスローガンの作成

中学生が母校でのあいさつ運動をすることが不可能となり，部会で話し合った結果，第四中学校区統一のあいさつのスローガンをもとにした各学校のスローガンを作成し，それぞれの学校の委員会が中心となって，あいさつを呼びかけるということを行った。その結果，あいさつの大切さが分かり，意識向上を図ることができた。

③　体力向上部会

ア　ねらい

体力向上部会では，「明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を目指す。

イ　取組

（ア）体力テストの結果を踏まえた取組

今年度は，臨時休校により体力の低下が課題となったため，体力の回復を最重点とし，家庭でできる運動をＨＰにアップするなど，家庭への啓発に取り組んだ。

（イ）健康・安全に関する自己管理能力を高めるための取組

２年次から，「一人ひとりの生活習慣を見直す」ことに重点を置き，自己の健康への関心を高め，改善していこうとする意識の高揚を図った。４校共通の生活習慣チェックカード（グッドモーニングカード）を作成し各校で取り組むこととした。

３年次は，長期休業明けに規則正しい生活のリズムを取り戻すことを重点とし，生活習慣の見直しに取り組んだ。実施時期は，夏休み明けの９月（実施済），冬休み明けの１月（予定）とした。

実施時期	学期１回長期休業明け（５月連休明け，夏休み明け，冬休み明け） 土・日をはさむ１週間
内　　容	就寝時刻，起床時刻，朝食摂食，排便，歯磨き 自分が特に頑張る目標を設定して取り組む。
評　　価	自己評価（各項目は○×，全体評価は４段階）とする。保護者にも連絡

④　交流活動部会

ア　ねらい

小中学生の学校間交流活動及び地域との交流活動を推進し，「つなぐ」「そろえる」教育活動を実践する。

イ　取組

今年度は，１年次に決めたスローガンをより周知できるよう「ありがとう」「おもいやり」「やりきる」「チャレンジ」の言葉のイラストを募集した。（新型コロナウイルス感染予防のための臨時休校期間の課題）４校の作品を合わせたマークが完成した。

４　成果（進捗状況と今後の課題）

・各校の部員が話し合う機会を設けることで，地域や他校の特色や実態を知ることができ，第四中学校区としての理解を深めることができた。

・各部会研修会等を通して，教職員間の交流が活性化し「つながり」が強まるとともに，若手教員をはじめとして教職員の資質向上を図ることができた。

・９年間の学びの連続性を深めることは，児童が第四中学校に進学した後，円滑に学習に取り組めるようにすることにつながった。（学力向上部会）

・第四中学校の学習上の課題について４校の共通した理解を図ることは，小学校でも対策を練ることにつながり，中学校区全体の課題への対策になった。（学力向上部会）

・道徳による，あいさつ・礼儀に関する授業の実践を呼びかけ掲示物を作成することで，各学校の道徳への取組が分かるようになった。（規範意識向上部会）

・あいさつのスローガンを第四中学校区統一のものから，学校ごとに作成し，それぞれの学校で呼びかけることで，あいさつに対する意識の高揚が見られた。（規範意識向上部会）

・２年次からの新しい試みであった第四中学校区共通の「生活習慣チェックカード」の活用により，健康・安全に関する意識の高揚が図られた。第四中学区全体で児童生徒を育て高め合う取組として継続していく。（体力向上部会）

・児童生徒・教職員の交流については，陸上練習会において各小学校の卒業生が多数参加し，児童生徒の交流ができた。成長した中学生の姿を小学校の教員に見せるよい機会にもなった。また，児童生徒の交流だけでなく教職員の交流も図られた。無理なく継続していく。（体力向上部会）

・３年次はコロナ禍でも実施できることを考え，スローガン「しあわせのクローバー」のシンボルマークが完成したことがよかった。（交流活動部会）

・道徳の公開授業（第四中）を実施し，特に若手教員資質向上が図れたことがよかった。（交流活動部会）

○課題

・各部会の活動を更に吟味検討し，無理なく継続できる小中一貫教育を目指す。

・学期に１回程度，各校の部員が集まって話し合う機会を設けることは，実践を継続していくために必要である。

・この３年間で多くの職員の入れ替えがあった。それでも活動が継続することができるように，全職員で共通理解を図る。

・コロナ禍の中での話合い活動の在り方について，４校が共通した形態で取り組むことができるようにする。（学力向上部会）

・今後も，規範意識向上を目指し，第四中を軸として，小中連携に関する話合いを行っていきたい。そして，継続して全職員の共通理解を図っていきたい。（規範意識向上部会）

・「投力アップのための体づくり」については，試行錯誤しながら取り組んでいる。なかなか投力向上へつながらないが，継続できる運動の工夫を今後も検討していく。（体力向上部会）

・２年次には，交流活動部会として 12 の活動ができたが，３年次はコロナウイルス感染予防のため実施が難しかった。資料を整理し，次年度以降実施できるよう引き継ぐ。（交流活動部会）